

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
只	シただ 人①		只						只 鄭警指歸
叩	コウ たたき たたく ①			叩 叩			叩 叩 叩		
吋	インチ ①								
各	カク おのおの 教4常①	各	各	各	各	各	各 各 各	各 各 各	各 杜家立成
		各	各	各					
		各	各						
		各	各						
吉	キチ キツ よい 常①	吉	吉	吉	吉	吉	吉 吉 吉	吉 吉 吉	吉 郭武天皇雜集
吉		吉	吉	吉					
		吉	吉	吉					
		吉	吉	吉					
吃	キツ どもる ①		吃	吃					
吸	キョウ すう 教6常①		吸	吸	吸	吸	吸	吸	吸 鄭警指歸

【叩】説文にない。篆書は「扣」で代用する。
 【各】古代は「彳」や「疋」が加わった字体もあったようだ。
 【吉】「吉」いわゆる「さむらいよし」と、「吉」いわゆる「つちよし」問題。古代はどちらでも良いらしい。説文篆文がたまたま「吉」だったために「吉」が正字になった。漢代の隸書

以降は「吉」が圧倒的に多い。五経文字は説文篆文にならなくて「吉」だが親字としての掲載はなく、他の字の説明中にある。日本でも「吉」が圧倒的。江戸時代は使用例が少ないが「吉」も現れる。弘道軒には「吉」「吉」の両方がある。漱石は「吉」「吉」の両方を使っている。太宰は「吉」しか使って

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
只	只	只	只	只			只		只			只 現代中国
叩	叩	叩	叩				叩		叩			叩 現代中国
		吋	吋				吋					吋 現代中国
各	各	各	各				各	各	各	各		各 現代中国
吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉	吉		吉 現代中国
	吉		吉	吉								
吃	吃	吃	吃				吃					吃 現代中国
吸	吸	吸	吸	吸			吸	吸	吸	吸		吸 現代中国

おらず、正字や明朝活字の影響を見てとれる。
 【吸】康熙字典では「口」部の4画。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
叫	キョウ さげぶ 常①		𠂔				𠂔𠂔𠂔𠂔	𠂔𠂔𠂔𠂔	鄭魯指歸
							𠂔𠂔	𠂔𠂔	
向	コウ むかう むける むにう まきに むき 教3常①	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	王勃詩序
				𠂔 𠂔	𠂔				
后	コウ まき きみ 教6常①	𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	法隆寺光背記
				𠂔 𠂔	𠂔 𠂔				
合	ゴウ カフ あ あわす あわせる 教2常①	𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	王勃詩序
				𠂔					
吊	テウ つり つる つるす ①	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	璚玉集
弔	テウ とむらう つる 常①	𠂔		𠂔			𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	璚玉集
							𠂔 𠂔	𠂔 𠂔	
吐	ト はく 常①		𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔			𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	王勃詩序
							𠂔 𠂔	𠂔 𠂔	王勃詩序
							𠂔 𠂔	𠂔 𠂔	陳福寺碑 等慈寺碑

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		叫 現代中国
𠂔											
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		向 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		后 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		合 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		吊 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		吊 現代中国
𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔	𠂔	𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔	𠂔 𠂔 𠂔 𠂔		吐 現代中国
							𠂔 𠂔	𠂔 𠂔	𠂔 𠂔		

【叫】手書きでは旁を「リ」に作ることが多い。康熙字典では「口」部の2画にある。現代中国も旁は2画。当用漢字字体表では3画。
【向】上部は「𠂔」になるはずの字だったようである。
【后】『陸軍幼年学校用字便覧』は「後」の許容字体として掲

載され、「實ハ別字」と説明がある。
【吊】干祿字書、康熙字典ともに「吊」は「弔」の俗字としている。『陸軍幼年学校用字便覧』は「實ハ別字」としている。字体の変遷をみるかぎり、「吊」と「弔」は異体字と見て良いだろう。では「吊(つる)」と「弔(とむらう)」という意味は

いつ分かれたのか。江戸期は「弔」を「つる」、「とむらひ」と「吊」を「とむらひ」、「とむらひ」と読むなど意味は分かれていない。『陸軍幼年学校用字便覧』(大正3年編纂、昭和13年改訂)では「吊」を「弔」の許容字体として扱っているから、まだ意味は分かれていないと見るべきだろう。太宰は

「吊」と「弔」を明確に使い分けている。とすると「吊」と「弔」の意味が分かれたのは、昭和13年から23年の間ということだろうか。現代中国では「吊」と「弔」は「吊」に統合されているようだ。間に草書を介すると「弔」から「吊」ができた過程が理解できる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
同	ドウ おなじ								
名	メイ ミョウ な								
吏	リ								
含	ガン ふくむ くめる								
吟	ギン								

【名】曹全碑の「夕」は一画多い。

【吟】説文篆文に旁が「金」の或体がある。「今」と「金」の音が似ているからだろうか。また偏が「音」に従う字と、「言」に従う字がある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												同 現代中国
												名 現代中国
												吏 現代中国
												含 千禄<通> 現代中国
												吟 現代中国

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
君	クン きみ 教3常①								
呉	ゴ くれ くれる 常①								
吾	ゴ われ 人①								

【吾】石鼓文の字体は特異。「十七帖」と「争乱帖」では草書の崩し方が異なる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
君	君	君	君	君			君	君	君	君	君	君
元暦萬葉①	節用	口4										現代中国
		商										
		𠄎										
呉	呉	呉	呉	呉	呉		呉	呉		呉		呉
粘葉本朗詠	日本永代蔵	口4			明治の漢字(標準)					×		現代中国
呉		𠄎			呉							
墨流本朗詠		俗			明治の漢字(書体)							
吾	吾	吾		吾			吾	吾		吾		吾
粘葉本朗詠	節用	口4										現代中国
吾	吾											
粘葉本朗詠	節用											